

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100515		
法人名	社会福祉法人 陽恵福祉会		
事業所名	グループホーム陽恵苑(ユニットA)		
所在地	〒690-0024 松江市馬潟町104番地1		
自己評価作成日	平成26年1月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は社会福祉法人設立第1期となります。4月から新たな気持ちで1年間を振り返ってよかったと思える1年間となること。まず大きな事業として、陽恵福祉会第2回を開催しました。地域とともに、また利用者の方がた楽しく触れ合うことの出来る福祉祭となりました。昨年同様に地域の方々の方々のボランティア、出店、野菜の提供等々の協力を頂きました。又地域運営推進会議についての在り方など地域の方々のご意見を聴いたり、防災訓練、集団清掃、などにも参加する事が出来ました。今年度は2か月に1回地域へ配信する陽恵苑の情報紙を作りました。少しでも地域にの方々にお知らせ出来る陽恵苑になる様26年度も頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人となってからは浅いが、グループホームとしてスタートしてからは数年が経過している。市の東部に位置し高速道路からも近く、今後住宅を含めたサービス事業所が工事中でもあり、環境の変化が予想できる地域の中にある。2つの地域と関わりがあることから、それぞれとの関係作りが地道に行われてきており、利用者の地域行事への参加、職員の訓練、清掃、スポーツイベント等への参加などが実を結びつつある。事業所のイベントにも多くのボランティアの参加があり盛大に開催されている点からも、職員間のチームワークの良さが感じられた。同系列の介護事業所の開設も間近で、今後地域の中心的な施設としての事業展開に期待したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。] Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者の尊厳を大切にし利用者の体調を管理し安心した生活が送れるよう取り組んでいる。 ・ユニット会議などで利用者の思いを実践につなげている毎日朝礼時に理念を唱和している。	立ち上げ当時のものを継続しており、考え方を共有するように各ユニットで申し送りしている。新人職員には研修の中で取り上げている。	理念を基に共有できるように、具体的な、より身近なものとして感じられるような取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎月よらこい喫茶に出かけ地域の方と交流している。 ・地域の行事や、自施設の祭り事業に関してもボランティアでの参加や、出店などの協力もして頂いている。・防災訓練の協力、運営推進会議での地域の催しなども情報をいただいている。	中学生の体験学習、養護学校の高等部の生徒の体験、特別支援学級の生徒の受け入れ等福祉の人材育成の思いもあり積極的に受け入れを行っている。地域で開催される喫茶にもできるだけ参加し、関係者との交流の機会を大切にしている。イベント時のボランティアの受け入れも多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・年1回陽恵福祉祭を行っており地域の中の施設として利用者の方への理解と生活を知って頂く機会を持っている。行事等交流の際に理解していただくよう努めている。 ・陽恵通信を発行するようになり陽恵苑の出来事を地域に発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議においては情報の収集、施設における活動などの報告、地域の情報、協力、連携できる関係。 ・現場の職員は交代で参加し、運営推進会議の意義について理解を深めるようにしている。	利用者家族、行政、職員等も参加で開催しているが、特に地域関係者(民生委員、老人クラブ代表、町内会長等)の参加が多くあり、積極的な意見が多数出されている。地域からは行事の紹介、要望等、施設側には地域のニーズを聞く貴重な時間となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・当施設の担当者により取り組まれています。 ・サービス加算などの手続き等指導を受けながらサービスの向上に活かしている。	地域包括、介護保険課と運営推進会議には毎回参加を得ており、事業所の現状等についても理解を得ている。生活保護利用に於いては情報交換を密に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・高齢者の尊厳を保持することが重要であるという認識に立ち日常のケアに取り組んでいるが、利用者に危険が及ぶと考えられるものにはセンサーマットの対応なども行っている。	外部研修に参加しそれを基に内部への報告研修としたり、毎月の各ユニット会議でも取り上げて、具体的な例から感じられるよう話をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待について勉強会は行っていないが、報道等で虐待の記事がある時は職員同士で話し合ったり、自施設に置き換えて考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・今後においては研修会があれば参加したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に施設の説明や、案内等をご本人、家族の納得が出来るよう時間をかけ説明を行う。 ・契約事項も順を追って説明を行っている。新規の利用者の方には信頼関係が築けるよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に要望や質問など、聞くようにしている。 ・いつでも意見が述べられるように意見及び苦情等の窓口も設置している。 ・意見等があった場合は正面玄関等への掲示を行うようにしているが	家族宛の通信として、行事の写真を送り近況報告に簡単なコメントを書き添え、担当から毎月送っており、その中で意見を求めたり、面会時にも声掛けて意見を聞くようにしている。冬の鍋会、夏の焼き肉会など、家族参加の行事を企画したりして意見を聞く機会を増やしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・個別に話してもらったり、現場に入ったときに話を聞くようにしている。 ・年に1～2回は個人面談を行うようにしている。 ・現場の環境問題なども働きやすい場所づくりが出来る様心がけている。	管理者は職員と一緒に昼食を摂ったり、現場の仕事に入ることで日頃から意見を言い出しやすい環境を作るように心がけたり、各ユニットの会議の場でも意見を求めている。他のグループホームとの交流の会を持ち、お互いの悩みを聞く機会にする取り組みもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力給や、夜勤手当の増額等できる範囲で協力できるよう努力している。 ・好きなことを(文句を言える)言える職場の環境(給与賃金格差は別として)であれば恵まれていると思う。 ・職場環境の整備はできるところから行うように心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の技術向上等の為定期的に研修を受ける機会を設けられている。 ・研修への参加を勧めまた参加者による報告会を実施スキルの上を目指している。 ・施設外の研修は適性に応じ行うようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・定期的に同業者との交流会があり参加し、悩みや介護についての意見交換のできる会が提供されている。 ・同業者との交流の場としてお互いの施設間で祭りのお手伝いや協賛を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・職員(主に居室担当)が積極的にかかわりを持ちコミュニケーションをとるようにしている。 ・会話の中からご本人の要望等を把握し、個別のケアを行うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ケアプラン作成に当たりご要望事項や自宅での生活の継続できる部分を取り入れたり、希望のリハビリなど家族からのご要望をできるだけ聞くようにしている。 ・面会時や、お便りで利用者の状況を伝えたりお話しすることで安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者、家族の面会時には利用者の最近の様子なども伝え、ここでの生活を安心してもらえるよう伝え信頼関係を築けるよう努力している。 ・ケアプラン作成(担当者)・個別のお便りの継続 ・担当者会議の実施		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・尊敬の気持ちを忘れず接する様心がけている。 ・ともに出来る仕事などは一緒に取り組んである(料理の手伝い)		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族様には利用者の方の施設での様子を面会時には報告して利用の方が不安な時は家族にも協力してもらえるような関係づくりをしている。 ・毎月1回の家族様への報告や、お便りで写真なども見ていただ苑での様子を理解につなげている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親族友人等の面会の際はゆっくりとくつろいでいただけるような環境作りを行っている。遠方の方や久しぶりの面会等は記念写真を撮ってお送りしたりしている。また毎年故郷に墓参りに帰り、なじみの方たちと過ごす時間を作ったり家族と協力している。	地元の方との触れ合う機会として、毎月公民館の隣で行われる喫茶に、できるだけ参加することで、以前からの関係が継続するようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・難聴の方、性格の合わない方、面倒見の良い方、などテーブル席を配慮し楽しく会話ができるよう工夫している。 ・時々職員も一緒に加わり穏やかにすごせる環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービスの利用が終了しても、ご本人への面会(入院中)や、様子を見に伺うこともある。また亡くなられた方の家族様から入居希望のご紹介、友人の相談に連絡をいただいたり継続した関係がある。また3回忌が終わってもご報告に来てくださったり、ウエスなど持参されたりと関係が続いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人本位の難しさを感じながらも本人の意向に沿った個別ケア等も行いながら苑での生活に張りを持っていただけるように努力している。	以前の生活の様子を本人、家族からできるだけ聞き出しアセスメントを作成している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人一人の生活歴について把握に努めている。 ・利用者の趣味などが生活の中で得意の部分を活用することができるのか会議等で検討している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の能力を生かし本人の意向に沿った生活をしていただいている。毎月の会議においてもカンファレンスを行い全職員で共通認識を持つようにしている。 ・生活の中で得意な作業など(洗濯たたみ)新聞でのゴミ袋作成等出来る機能を生かしていただいている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月ケア会議を行い一人一人の変化やケアの在り方等職員同士で話し合いをし、利用者に出した介護の実践をしている。 ・ご本人のニーズ、家族からの要望、現場担当者からの情報ケア記録等をもとに御本人のより良いケアに努めている。	担当を中心に皆で意見を出し合い、プランの変更に繋げるように心がけている。的確なモニタリングになるよう今後日々の記録の見直しの必要性を感じている。	個々の残存能力を生かせるような個別のプランを検討いただきたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の個別のケア記録をもとに情報を共有し状態変化があれば話し合いしプランの見直し生かしていると思う。 ・プラン後の利用者の様子等を安全会議報告書で結果確認、担当者とのカンファレンスにて情報収集等を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・毎月の行事担当を決め利用者のニーズに沿った内容考え季節を感じていただける行事内容にしたり利用者の残存機能を生かした行事、外部との交流行事など施設サービスの一環として職員全員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の公民館の御茶の会に定期的に出かけている。 ・毎年新そばを食する機会をもうけ、来ていただいている。地域の皆さんの協力によりささえられている。 ・福祉祭の開催においては地域の方の協力をいただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に往診に来ていただいているが、受診が必要な場合は受診対応を行っている。 ・総合病院に定期的に受診が必要な方には受診の援助を行っている。受診後は家族に状況を報告している。	3人の往診可能な協力医を確保しており、定期的な往診に加え必要時には受診の付き添いも行われている。日頃の情報を伝えることで指示を得ており、いい関係が築けている。精神科の受診にも付き添い、的確な指示のもと病状の安定に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、表情当変化があったときはすぐ報告し早期発見を心掛けている。 ・ケアマネが、看護師であり日常の中での変化はすぐ報告し、主治医の指示により適切な対応を行っている。1月より訪問看護STとの契約により医療連携も行うようになった。現在看取りはないが、医療連携もあり今後は看取りに取り組む体制はある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・担当医が決まっておりますなじみの関係にある。入院の場合は担当者が情報等の共有に努めている。 ・入院時は担当医からの情報提供や施設からの情報提供も行っている。 ・状態も改善したらすぐ退院できる体制にしており長引かない様対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・担当者が支援しその情報を職員と共有し皆で取り組んでいる・重度化の予測、今後起きうる状況など事前家族に説明し、本人や家族の意向を尊重した対応が出来るよう配慮。・1月より医療連携体制加算の手続きにより訪問看護との連携もできるようになり緊急時の等の連携も強化されるようになった。	自然体でという考えの元、家族、主治医等とその都度話し合いの機会を持ちながら対応することとしており、今までに2回の看取りを行っている。終末ケアの研修に参加したり、他のグループホームへ研修に出かけたりと職員のレベルアップも目指し取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当の研修者が伝達講習を職員に行っている・研修した職員から年2回くらいは応急の研修希望があったが今年はできていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防防災訓練については地区の消防団長の把握消火器点検の依頼、使用方法の確認、災害時の対応について苑内研修があり参加した。・苑の防災担当による年間計画により年2～3回の災害避難訓練等を行い地域の防災訓練にも参加している。	年間の定期的な訓練の他、ベルの押し方、電話の掛け方 AEDの使い方、危険な場所の把握、暗い場所での注意等身近な取り入れやすいものを短時間で行う等の工夫で災害に備えている。地域の方の参加で避難訓練を実施したり、近隣の少ない場所でも協力を得られるような働きかけもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも尊敬の気持ちをもって接するように心がけている。 ・職員同士、上司からの注意助言を素直に聞き態度を客観的に判断するよう心がけていきたい。 	言葉使いを含めた接遇に関してはその場で注意するようにしている。日頃の振り返りとして定期的な会議の場でも取り上げ注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の希望に添えられるよう意見を聞き判断がつかない場合は選択できるよう働きかける。 ・利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し本人の希望に添えるよう心遣いしている。 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のペースに利用者の希望、思いを大切にしながら気分に変化の生じやすい認知症の特徴を念頭に行動、表情を観察し、職員側のペース中心にならないようにと留意している。 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の際のお化粧品、洋服の選択、入浴後の洋服の選択などはご本人と一緒に決めている。 ・入浴後などは鏡の前で整髪してもらっている。 ・更衣などは押し付けにならない様配慮している。 ・季節に応じた服などすごしやすく生活できることも考慮している。 		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の力量に応じてやさいを切ったり、盛り付けをしていただいたりすることにより一緒に準備ができた食事をみんなでいただくことで自分の役割が喜びにつながっている。食後の洗い物、茶わん拭きなどご本人のできる役割があり楽しみとなっている。 	調理の下準備、テーブルの用意、片付け、食器拭きなど、できる形で自分の役割として取り組む姿がある。食を楽しむ観点から外食の機会も増やしたり、にぎり寿司やバイキング、そうめん流しなど工夫をして楽しめるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に合わせた(刻み食、とろみ食など)食事を提供している。食事量や水分量は記載し1日量を確保できているか確認。脱水や、便秘に気を付け栄養が不足しているようであれば補助食品等も利用している。 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアを徹底している。清潔保持に気を付け風邪の予防にもなっている。義歯の調整など不具合があれば歯科医と連携しすぐ対応ができています。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・オムツの使用を減らしてできるだけ日中はトイレでの排泄を行っていただいている。 ・本人のパターンを知り尿意がない場合は声かけを行ないトイレでの排泄を促している。	個々の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を促している。紙パンツにパットとあて方もそれぞれにあうように考え対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・なるべく下剤に頼らず水分をしっかり取って頂き食物繊維や、牛乳、ヨーグルトを提供している。 ・排泄パターンをつかみ、便の硬さなども考え排便がスムーズに行えるようコントロールをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・1日3人くらいと決めているが、本人の選択により入浴日を変更したり希望を聞いている。特殊浴槽もあり希望の場合はどちらでも選択できるように対応している。	一般浴、特殊浴槽とどちらの利用も可能。状態に合わせてたり希望を聞いて対応している。自分でとの思いの方には見守りで安全確認し自由に過ごせるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒い時期には電気毛布、あんか、エアコンなどで本人が眠りやすいよう配慮している。 ・食後の休息、夜間の入眠時間も本人のペースを尊重している。 ・季節や体調に応じて温度、湿度の調節等もしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の確認や、チェック機能により誤薬のないよう注意している。 ・薬の服用で蓄積等の変化があれば報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・野菜切、新聞たたみ、食器洗い、塗り絵、洗濯干し等個々のできる仕事や、楽しみができる支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	・誕生日、の外出、喫茶、買い物など職員体制を考慮し希望に添えるよう支援している。 ・家族の支援により外出、遠出、買い物、など出かけられることもある。	年間の大きな外出行事は決められているが、普段は担当がいるいる工夫をして外出の機会が多くもてるようにしている。個別に買い物やドライブに出たり希望を聞いて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事務所で管理しているが、希望時は事前に本人の希望金額で外出時に自分で買い物をされている。 ・少額を自分で管理されている方もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をかけたいと希望される方にはつなぐことはしている。 ・ご本人が手紙を書きたいといわれる方には相手先に郵送の支援はしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてリビングの配置や模様替えを行ったりテーブル等の位置を変更したりしている。壁面のちぎり絵なども季節に応じて変えている。壁面にはそれぞれの表情のある写真も貼り、行事の思いを見ていただいている。	リビングからは外の景色や1階の日本庭園を眺める事ができ、季節を感じることができる。壁にも季節感がでるような作品が飾られている。高速道路からも近いが騒音もあまり気にならず、ゆったり過ごせる空間がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ、和室、テーブルの配置、利用者同士が話しやすい環境、廊下のソファの利用など好きなところで過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものや、家具、仏壇、鏡台など使い慣れたものが配置されている。テレビなども見やすい位置に変えたりしてゆっくり部屋で過ごせるよう配置されている。思い出の写真なども飾って喜んでいただけるよう配慮している。	家での使い慣れた物の持ち込みを進めており、仏壇やタンス、鏡台等を持参されている。ベッドやポータブルトイレなど動線を考えて配置しており、くつろげるように担当と一緒に考えるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・使いやすいくすぐしやすい物の配置など安全に配慮しながら行うようにしている。 ・自分らしい生活ができるよう支援している。出来ることは見守り、必要以上の介助はしないように心がけている。		